

専念寺通信

1月号 (NO.185) <http://sennenji.s296.xrea.com/>

明けましておめでとうございます。今年も住職、寺族、職員ともに心を合わせて法灯を守って参ります。2016年もどうぞよろしく願い申し上げます。

☆浄土宗の宗紋と宗歌

年頭にあたり、浄土宗の宗紋と宗歌についてお話致します。法然上人の真作といわれる和歌は23種ありますが、宗歌となった歌は「続千載和歌集」にも選ばれています。



月かげの いたらぬさとは なけれども
ながむる人の 心にぞすむ

詞書に「光明遍照十方世界といえる心を」とあり、阿弥陀仏の光明は全世界をあまねく照らし、誰をも救うという慈悲の心を歌ったものです。

浄土宗の宗紋は「月影杏葉」（つきかげぎょよう）と呼ばれ、上記の和歌とともに、大正4年（1915）に正式に宗紋・宗歌として定められました。

杏葉の紋は、大陸伝来の馬具唐鞍の飾りが起源だといわれています。美しい紋のため貴族社会でも非常に好まれ、その頃から家紋として用いられていました。

戦国大名の家紋としても多く使われていますが、もっとも有名なのは九州豊後を本拠とした大友氏です。大友一族だけでなく、功のあった家臣もこれを用いていました。

浄土宗の開祖、法然上人の実家、漆間氏はこの大友氏の一族です。上人の生涯を描いた「法然上人絵伝」には幕に杏葉紋が描かれている様子が確認できます。この杏葉紋に、「月かげ」の月を配した紋が現在の宗紋です。蕊は7個と定められています。

この杏葉は、茗荷紋に非常に似ています。これは、先に存在した美しい杏葉の紋が茗荷に似ていると考えられ、杏紋を改造して茗荷紋が作られたためです。茗荷の音が冥加に通じることから、瑞祥的・信仰的な意味でも使われることが多く、混同されるケースも多いようです。見分け方としては、茗荷は葉脈がありますが、杏紋には葉脈が描かれません。見比べてみるのも一興かと思ひ、茗荷紋の画像も掲載いたしますが、浄土宗は杏葉紋ですのでお間違えなく...

本年もよい年でありますようにお祈り致します。

平成28年1月1日

専念寺

